



四季彩の杜 西園 / 指定管理者HP



四季彩の杜 薬師池 (薬師池公園) / 町田市HP

四季彩の杜では、2020年に、新たにウェルカムゲートの機能を果たす西園をオープンした。23年度には「町田薬師池公園 四季彩の杜魅力向上計画 Ver.2」を策定し、市内の名所である「町田薬師池公園 四季彩の杜」を32年度までに市内外から多くの人が訪れる「町田のシンボル」とすることを目指す。この公園は薬師池やリス園、ぼたん園などの施設から構成され、豊かな自然環境と歴史的资源を有している。今回、西園のスタッフからの説明を受け、視察した大学生はこう話す。

「町田市には初めて来ました。これまで市のこと自体もあまり知りませんでした。この場所には市民と一緒に作り上げていく、温かみのある公園という印象を受けました。例えばライブイベントのような来園者参加型のイベントがあれば、より楽しい



立川市 子育て支援・保健センター はぐくるりん

2025年5月に「立川市子育て支援・保健センターはぐくるりん」が立川市にオープンした。この施設には、母子保健と児童福祉の両面から子どもや子育て家庭の支援を行う「子ども家庭センター」、発達に支援や配慮が必要な未就学児の療育や家族支援などを行う「児童発達支援センター」、そして就学相談や教育相談に対応する「教育支援課」などの組織が入っている。

視察した大学生は、「この施設は色合いや雰囲気は温かく、細かい部分まで配慮が行き届いているため、どんな人でも安心できる場所だと思いました」と、利用者目線の対策が施されていると感じたようだった。また、大学生と市職員との意見交換会では、「香りは人の感情に変化をもたらす効果がある」という論文もある。施設の空間デザインに新たに取り入れては」といった意見も出た。

場所になりそうです」

市の担当者は、大学生との交流を通じて今後の改善点のヒントを得たと話す。

「訪れる方が町田市民であるかどうかを問わず、町田の魅力を見つけていただき、『町田のファン』をつくってほしいです。今回、大学生の皆さんの話を伺い、情報を調べるチャンネルが多岐にわたっていることを痛感しました。一方で、身近な存在の口コミからも興味を持ちやすいようなので、発信のあり方について参考にしたいと思っています」

新たなシンボルとなる「四季彩の杜」の魅力

しきさい もり 町田市

子どもや子育て家庭を途切れなく支援する新拠点

立川市

多摩地域の魅力

の魅力 第2回



を大学生が体感

東京都 (多摩の魅力発信プロジェクト)



広大な自然、良質な住環境、特色のある産業——。東京都の面積の約半分を占め、3分の1相当の人口を擁し、30市町村からなる多摩地域にはさまざまな魅力がある。今回はその中でも、立川市、あきる野市、町田市、武蔵村山市の先進的・特徴的な事業と、それを実際に大学生が視察した様子を紹介する。

制作 / 東洋経済企画広告制作チーム

ビジネスプランコンテストから見る地域資源の可能性

武蔵村山市

武蔵村山市では2024年度からビジネスプランコンテストを開催しており、本年度は名称を「むさびズ」としている。目的は、新たな創業者の掘り起こしや創業に対する機運醸成だ。実際に昨年度最終審査に進んだ8組9名のうち、すでに3名が事業化に至っており、飲食店のオープンやスイカ農家としての活躍など様々だ。

大学生は今回、市の観光まちづくり協会より村山大島紬[※]や特産品の説明を受けた後、秋にミカン狩りが

できる小林農園などを視察。市の地域資源への理解を深め、「むさびズ」参加者が提出するプランを練るためのワークショップを見学した。

「武蔵村山市出身ですが、どんな場所を市が推しているのかわかりませんでした。地域のスポットやゼミの視察を通じて、当たり前前に自分の生活の一部になっていた場所が推しポイントになるとわかりました」(大学生)

市の担当者も、大学生との意見交換を通じて得られた成果があったと話す。

「地域資源をはじめ、つながりや助け合いを大切にする風土は本市の1つの魅力です。そんな中、第三者の視点から武蔵村山ならではの地域資源がどう映るのか、そしてビジネスと地域資源がどう結び付くのか興味を持っていました。今回大学生の皆さんから意見を聞き、多くの発見がありました」



武蔵村山市ビジネスプランコンテスト「むさびズ」

※ 村山大島紬: 先に染めた絹糸を手作業で平織りする紬で、武蔵村山市の伝統工芸品



林業への理解を深め、大切な資源を守る

あきる野市

あきる野市は、2010年に新宿区と森林整備によるCO₂吸収などに取り組む「新宿の森あきる野(企業の森)」の森林整備に関する協定を締結しており、また25年に東京の木「多摩産材」を多く使用した武蔵五日市駅前拠点施設「フレア五日市」をオープンするなど、森林や林業への理解を深める事業を展開している。

市の担当者は、次のように話した。

「近年、林業の業界では、担い手の減少や高齢化が問題になっています。



今回、実際に大学生の皆さんに視察してもらい、「若年層に興味を持ってもらうためにどんな接点をつくらなければいいか」という点を話し合うことができ、大きな刺激となりました」

視察した大学生は、「ただ木を伐採すればよいというわけではなく、日光の当たり方といった影響も考え、間伐や枝打ち[※]をしなければいけない。思っていたよりも何倍も大変だが、やりがいのある仕事だと感じた」と話しており、森林を保護するための関係者の不断の努力を知ることができたようだ。

東京から、木材の活用や森林保全の重要性を発信する——。森林は木材の生産以外にも、きれいな空気や水を生み出し、癒やしや安らぎを与える大切な資源だ。それを守るためにも、あきる野市の林業振興の推進が期待される。



あきる野市HP

※ 枝打ち: 森林に十分に光を入れるために、余分な下枝を切り落とすこと。これにより、木が節のない「無節」となり、商品価値が高まる。

AD